天気の不思議に魅せられて

ずっと気象ウォッチャーであり続けたい

ノートに天気図を書きためていた小学生時代

「『気象オタク』というのとは自分では違うと思っているけど、物心がついたときには、お天気が好きになっていました。インターネットがない時代ですから、ラジオの気象通報と新聞の天気欄が楽しみで。小学校高学年の頃くらいから、天気図や気象に関する記事を自分でスクラップしたノートが何十冊もありますね」。

杉江勇次さんは、元山駅前のお米屋さんの次男として生まれた。「子どもの頃の思い出と言えば、東京は雪になりましたと天気予報で聞いてワクワクしていたのに、元山には結局降らなくてがっかりしたり、たまのお出かけで新京成線に乗ると、松戸から乗った時は雪だったのに津田沼に着くと雨だったとか、こんなに天気が変わりやすいのは何故だろう、不思議だなあと思っていましたね」。

空を見たり、天気図を書いて、自分なりに予測してみたりするのが大好きな子どもだったという。

しかし「女の子にもてないから」と、学校ではあまり趣味を知られなかった杉江少年。中学に入ると兄の影響でドラムを始めたり、TVドラマ「スクールウォーズ」に憧れて高校ではラグビー部と、活動的に過ごした。大学では化学を専攻しながら、バンド活動に明け暮れた。就職活動期はまさにIT急成長の時で、幕張の富士通にシステムエンジニアとして採用された。

「それでもいずれ、天気関係の仕事をしてみたいなあという気持ちは残っていたんです」。でもまだ、きっかけはなかった。

特技はドラム演奏。雷の時はドラムを激しく鳴らすなど、ドラムを使った天気予報をしたこともある

気象予報士試験がスタートし転職

転機が訪れたのは社会人3年目。情報化社会に伴って気象予報のニーズが広がり、民間の気象事業を振興するために、気象予報士試験がスタートしたのだ。

「キター!と思いました。特に試験勉強もしないで試験問題を解いてみたら半分くらいはできた。これはすぐに通るかも、と思いました」。

1995年春に会社に辞表を出し、その夏の試験に受かってしまった。いくつか民間の天気予報会社を訪問するなかで、ウェザーマップを立ち上げたばかりの森田正光氏に出会う。テレビ局に見学にいきしゃべってみてって言われて、今考えるとあれがオーディションだった?というような状況で、T

気象予報士

杉江勇次さん

1968年松戸市生まれ。中央大学理工学部卒業後、富士通のシステムエンジニアに。1995年、気象予報士の資格を取得し、(株)ウェザーマップ(気象業務法により気象庁長官の許可を受けた気象予報会社)に転職。現在は日本テレビのお天気キャスターとして活躍中。「NNNストレイトニュース」「あさ天サタデー」「ズームイン!サタデー(不定期)」など

BSのお天気キャスターとしての初仕事が、トントン拍子で決まった。

「出演者になることは全然考えたことがなかったけど、10年も20年もお天気番組を聞き続けていたから、自然としゃべり方が耳に残っていたんでしょうね（笑）」。

今関心があるのは温暖化の未来

気象予報士の有資格者は今や5000人以上いるが、TVキー局のお天気キャスターとして活躍しているのは20～30人程度とほんの一握り。しかも、カメラの前でしゃべるのは仕事のうちのごく一部で、杉江さん自身、原稿を書く仕事も多いという。

「子どもの頃の豪雪記録を、あらためて調べてネタにしたり、やっていることは趣味と実益を兼ねているので、すごく楽しいですね。ただ、早朝番組出演は時間が不規則になるという点が、ちょっとつらいです」。

台風や大雪がせまっているとき、天気図を読んで予想するのは仕事柄ワクワクするが、自分の生活的にはやっぱり穏やかなお天気の日が好き、と笑う。今まさに達成感を感じているという杉江さんに、これから先の夢を聞いてみた。

「今興味あるのは、温暖化の行く末ですね。僕らの子どもの頃に比べて本当に雪が少なく、暖冬の年が多くなってきていると感じますが、その理由はまだ明らかになっておらず、諸説があります。いろいろな要因を想像しながら、冷静で科学的な態度を忘れずに、これから温暖化の問題がどうなっていくか、ある程度先まで見届けたい。10年、20年先まで、ずっと気象ウォッチャーでありたいと思っています」。

読者のページ

行って来ました沿線健康ハイキング！

■8㎞コースでしたが、暑くなりかけの日々だったので、いっぱいいっぱいでした。江戸川、水元公園の池、そして金魚の泳ぐ姿は涼しげでした。運動不足…！というわけではないのに、足にきつかったです。ゴールでいただいた飲料水『レモリア』、すごくおいしかった！楽しかったです。

松戸市　H・Iさん

●

ご参加いただきありがとうございました。「楽しく、健康にもいい1日だった」というご感想を多数いただきました。次回は秋に開催します。お楽しみに！

特集の「緑のある暮らし」わが家でも実践してみたい

■桐原先生のペットボトル栽培特集。ペットボトルを利用してお花を育てられるのはエコだし、それにとってもかわいらしいですね。ぜひわが家でも挑戦してみたいと思います。

千葉市　蓑島利恵さん

●

ご愛読ありがとうございます。同様のお便りをたくさんいただきました。ちなみに先生のものは6月に芽を出し、取材の時に作ったものは種が割れてきたところです。簡単ですのでぜひみなさんも作ってみてくださいね。

沿線紳士淑女の奥華子さんコンサートと路上ライブに感動

■インタビュー記事を興味深く読ませていただきました。この記事を読んだのが6月27日のコンサートの少し前でしたので、当日を迎えるのがよりいっそう楽しみでした。楽しく、癒されるコンサートでした。

東京都江戸川区　S・Sさん

■歌声どおりさわやかな方ですね。偶然に息子が津田沼駅の路上ライブで立ち止まって聴き、即決して買ったCDを親子で聴いています。鮮烈な出来事でした。これからのご活躍を期待しています。

船橋市　M・Yさん

●

奥華子さんのコンサートツアーは、地元でのファイナルということで大変盛り上がりました。これからの音楽活動に期待したいですね。応援をよろしくお願いいたします。

お楽しみ読者プレゼント

●応募方法
必ずハガキでご応募ください。
①ご希望のプレゼント商品記号②今号で面白かった記事や気付いた点③ご要望、また「新京成なぜ?なに百科」で取り上げてほしいテーマなど④郵便番号⑤住所 ⑥氏名（ふりがな） ⑦年齢　⑧職業　⑨電話番号を明記して下記にお送りください。締切は2008年9月1日（月）消印有効です。

〒273-0192
鎌ケ谷市くぬぎ山 4-1-12
新京成電鉄 CiaO 編集係

※応募多数の場合は抽選とし、当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

A ラ・フロレゾンから
「お食事券」（1,000円相当）
10名様

B アンデルセン公園から
「招待券」
10組20名様

C CiaOから
「京成グループマグネットと新京成ピンバッチのセット」
10名様

D CiaOから
「宇宙食（カレー、ようかん）」
5名様

今回特集・表紙の撮影でご協力いただいた「千葉市科学館」のミュージアムショップで扱っているものです。

あなたの情報をCiaOに！

身近な情報（おすすめのお店、スポット、紹介したい人やサークル等）を上記CiaO編集係にお寄せください。情報を採用させていただいた方には粗品をプレゼントします。お便りには郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を忘れずにご記入ください。

※お寄せいただいた個人情報は厳重に管理し、プレゼントにご応募いただいた方への連絡や本誌の内容向上以外の目的で使用することは一切ありません。
※読者のページは、掲載の都合上、文章を省略・加筆させていただく場合がございます。ご了承ください。